



校長通信

空の飛び方

「教師はいいぞ！！」

私が本巣松陽高校に在職していた頃、他校に勤務していたかつての教え子から「虫賀先生が授業中に話してくれた雑談を聞いて、教師の道を目指しました。いつか先生にお会いして、このことを伝えたいと思っていました」と言われました。そんなに影響力のある話をした覚えはなかったのですが、雑談として話したのは「教師はいいぞ」という話でした。

教師は1時間の授業をするにあたり、その何倍もの教材研究をすることを強いられるため、自分の知識がどんどん増えていきます。また、生徒との関わりの中で人間的にも成長できます。自分自身が賢くなりながら、成長しながら、給料をいただける、こんないい職業はないという話です。教師のよさの2つ目として、さまざまな職業のいいところ取りができることを挙げることができます。たとえば、教師は必ず部活動の顧問をすることになりますが、運動部の顧問を任されれば、スポーツチームの監督の気分を味わうことができます。私自身はバドミントン部の顧問を24年間務めました。監督として、大会に向けたチーム作りや選手の技術の向上に努めるとともに、人間教育を念頭に置いた指導を心がけてきましたが、今から思えば、「素人ながらよくここまで頑張れた」と思えるくらい情熱を注ぎました。最近、「働き方改革」の影響で、部活動は外部指導者に任せるという傾向にあります。部活動の指導も大切な教師の仕事であると考えています。管理職になってからは、部活動の指導をすることはなくなりましたが、昨年暮れに、館先生の計らいで、本校バドミントン部を4時間みっちり指導させていただき、よい思い出を作ることができました。また、教員人生の中で、文化祭の職員の出し物ではいつもまとめ役をやらせていただきました。その中で職員劇では俳優の気分を、職員バンドではミュージシャンの気分を味わうことができました。今年度の文化祭でもバッチリ楽しませてもらいました。



他にも教師のよさとして、常に若い世代と関わるができるので、精神的にいつまでも若々しくいられること、毎日毎日が同じことの繰り返しではなく充実した日々を送ることができることなどを挙げることができます。そうした中でも一番のよさは、人に関わる職業は数多くあれど、人の成長に関わるができる職業は教師しかないということです。そしてその過程の中で教師の言動や行動が生徒たちの人生に大きな影響を与えることとなります。それだけ責任が重い仕事ではありますが、やりがいのある仕事とも言えます。実際に私の「教師はいいぞ」という話から教師になった教え子がいるということが、その証でもあります。この通信を読んだ本校の生徒たちの中からも教師を目指す人が出てきてくれることを期待しています。

今から30年後には、人工知能が人間を凌駕する時代が訪れると言われ、現在ある職業の6割が人口知能にとって代わられると予想されていますが、教師という人間くさい仕事は永遠に不滅であると思います。たとえ、ICT機器が主流を占める授業形態になったとしても、それはあくまでも授業を深めるためのツールであり、教師が教育活動の中心にいるということは間違いありません。大切なことは、新しい時代に対応するために教師が教育者として常に学び続けなければならないということです。

私自身、今年度で定年退職となります。教員人生37年間のうちの合計11年間を、この各務原西高校で過ごすことができました。今、教員人生を振り返ってみて、「教師はいいぞ」と言えるのも本校のおかげであると思います。本当にありがとうございました。